

平成31年2月1日

東京都福生市長
加藤 育男 殿

福生市環境マネジメントシステム監査チーム

代表監査委員 田中 悠朗

副代表監査委員 石毛 和夫

矢ヶ崎 冬木

小澤 はる奈

環境監査報告書

福生市環境マネジメントシステム（F-e）の平成30年度監査結果について、以下のとおり報告いたします。

1. 日時

平成31年1月30日（水）～2月1日（金）

2. 監査対象

本庁舎	8	実行部門
市民利用施設	4	実行部門
供給処理施設	1	実行部門
教育施設	3	実行部門
指定管理施設	2	実行部門
計	18	実行部門および推進委員会

なお、監査対象の内3実行部門は平成31年1月11日実施済み。

3. 監査結果集計

視点	番号	項目	評価のポイント	高評価	改善要望
A	目視	環境配慮行動の工夫	目視確認により適正な実施状況を確認。		
	0	前回監査のフォロー	前回監査における「改善要望」にどう対応したか。	該当なし	
M	1	数値目標の管理	環境負荷データ、結果の分析を職場内で共有し、職員個人の役割を自覚しているか。 目標達成に向けた方針が明確か。		
M	2	第3次福生市地球温暖化対策実行計画について(周知)	F-eの数値目標や取組が「第3次福生市地球温暖化対策実行計画」をベースに定められていることを周知する。	評価しない	
M	3	コピー用紙使用量の削減	職場の状況を踏まえたコピー用紙使用抑制策が検討・実施されているか。	2	
G	4	市民参加・協働の促進	環境に関する計画、事業、イベントの実施は市民参加を基盤にすることを意識し、市民の巻き込み・連携・情報伝達を行っているか。市民活動の発展への意識を持っているか。		
M	5	環境学習の推進	地域の特徴やこれまでの取組を活かした特色ある環境学習に積極的に取り組んでいるか。 学校外部と連携して広がり・深みのある学習活動を展開しているか。		
A	6	施設利用者や事業者への取組	事業者や施設利用者も活動の中で環境配慮が定着するように促しているか。		
M	7	監査結果の確認と共有	昨年度の監査報告書を確認し、取組改善に活かしているか。		
—	9	独自の取組	職場の特性を活かした独自工夫が見られるか。	5	
M	推1	所管部署・施設における取組方針	F-eの意義・目的と所管部署の業務との関連を意識し、目標達成に向けた方針を有しているか。		
M	推2	ハード面の温暖化対策の実現方針	施設設計の担当として適切なハード対策を誘導しているか。		
M	市長	環境への取組方針	市の環境施策・取組についての評価。 SDGsへの考え方。		
M	副市長	ハード対策推進の具体的方策	環境面のメリットを生む働き方改革への考え方。		
M	教育長	環境学習の推進方針	ESD、人材育成、SDGsへの取組の進展状況。		
M	事	システム全体			
		合計		7	0

※監査の視点について・・・ A＝エコアクション（環境配慮）、M＝マネジメント（環境経営）、G＝ガバナンス（環境協働）

※設問2は第3次福生市地球温暖化対策実行計画を周知するものであったため、評価しない。

※設問8は実行部門ごとの独自質問としたため、回答内容に応じて該当する他の設問に振り分けて集計した。

4. 総合所見

福生市環境マネジメントシステム（F-e）の平成 30 年度取組状況監査を実施しました。その結果と所見は以下のとおりです。

（1）監査結果

設問ごとの評価で「特に高く評価したい点」として抽出された取組は 7 件、「改善をお願いしたい点」として指摘した事項はありませんでした。

今回の監査では、コピー用紙使用量の削減に関する取組を重点事項とし、「特に高く評価したい点」として、次の 2 件が抽出されました。

1 件目として、使用量データを確認して可視化、掲示して意識づけを図る取組、2 件目として、コピー機使用時に目につくように注意書きを取り付けている事例など、どの職場でもすぐに取り組める内容ですので、ぜひ水平展開をしていただきたいと思います。ペーパーレス化に向けて具体的な検討を進めている部署もあり、今後の展開に期待が持てました。一方でなかなか抜本的な対策が行えていない職場も多くあるようです。単に紙の使用量を減らす努力をするのではなく、電子データを使いこなす、作業の無駄をなくすなど、業務をスリム化するという発想で日々の行動を見直し、その結果として紙やエネルギーの削減につなげていただければと思います。

その他の「特に高く評価したい点」としては、職場の特徴を活かした独自取組が 5 件でした。中でも施設利用者に向けた掲示物を工夫している事例が目立ちました。例えば、カラーやイラストを使用した目につきやすい掲示物を貼り出す（市民会館）、テーマを絞って展示コーナーを設ける（防災食育センター）などの取組を参考にすれば、他の施設でも市民への PR 方法を改善していくことができると思います。掲示スペース自体の整理も含め、掲示による情報発信のあり方を市全体で改めて検討されてはいかがでしょうか。

（2）今後に向けて

○目標値の設定について

複数の職場で「利用者が（業務が）増えているため目標達成が難しい」との声が聞かれました。市民サービスが拡大することで環境負荷が増大することは否定できませんが、業務等の状況を踏まえた目標設定・管理の重要性が十分に浸透していないことについてはさらに認識を徹底する必要があります。

年度当初に業務増の見込みがあるならば、目標設定の段階でそれを反映し目標値を上げることも重要な判断です。年度途中で大幅な状況変化があった場合は、要因分析をした上で目標値を変更することも可能です。大切なことは、エネルギー・資源を有効に使って市民サービスを行うことです。「前年度を超えてはならない」という思い込みに囚われず、業務量と環境負荷量の関連を客観的に捉えるようにしてください。

○F-e 監査の方法について

現在、F-e の取組は福生市第 3 次地球温暖化対策実行計画の目標達成を目指して進められています。本計画の目標年次である平成 32 年度は再来年に迫っており、各施設でのハード対策が実行されなければ目標達成に至らないことも見えてきました。平成 32 年度以降に F-e の取組をどのように進めるのか、市民が参加する監査の場をどのように活かすのか、今の段階から検討し準備しておく必要があると考えます。

監査の方法については、普段通りの状況を確認するために対象部署を指定せずに抜き打ち的に行うのが良いという意見がある一方、監査を受けることで再確認の機会になるので準備することも有効だという声もあります。共通の質問項目を減らし、職場の特性や課題を中心に自由な意見交換をするのが良いのではないかと、という意見も出ています。

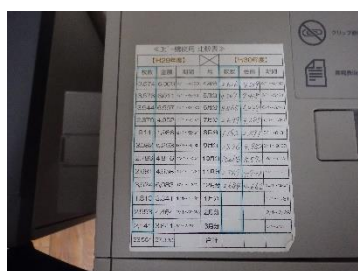
限られた時間の中で行うやり取りが、市の環境取組や環境施策の充実にきちんとつながっていくよう、推進委員会やマネージャー会議と監査チームの双方で検討していただければと思います。

5. 監査チームからの提言

今年度監査対象となった各実行部門における取組のうち、全庁的に水平展開することが望ましいと考える取組を以下に記します。各部署・施設の状態に応じて可能なものは取り入れたり、適宜アレンジを加えたりして、取組のレベルアップを図ってください。

実行部門名	関連する設問	取組内容
学校給食課	1 数値目標の管理	床面積 1 m ² あたりの水道使用料を算出して旧施設と比較評価し、効率化していることを把握しています。環境負荷を原単位（床面積当たりのほか、利用者数、稼働時間などでも可能）で考えるという管理手法 [*] は、他の施設でも有効です。
福生第三小学校	3 コピー用紙使用量の削減	コピー用紙の使用量をカウンターで確認し、コピー機のところ月に別使用枚数・金額とその前年度比データを掲示しています。また、職員数や児童数の表も掲示し、無駄な印刷をしないよう取り組んでいます。
環境課	3 コピー用紙使用量の削減	コピー機の操作パネル部分にコンパクトで丈夫な注意書きのプレートを貼り付け、使用時に必ず目に入るよう工夫されています。
スポーツ推進課 (中央体育館)	6 施設利用者や事業者への取組	古い水道で節水コマを利用しており、蛇口周辺に節水コマ使用による水量の説明と節約の掲示がしてあります。利用者に対しての節水の意識付けの効果があると思われました。
学校給食課	6 施設利用者や事業者への取組	食品ロスを防ぐための掲示物を展示スペースに設置し、来場者に呼びかけています。学校などでも同様の掲示が活用できると思います。
市民会館	6 施設利用者や事業者への取組	室温設定への理解を求めたり、F-e 取組を周知するための、カラーやイラストを効果的に使った掲示物がありました。他の市民が利用する施設でも利用されると良いと思います。
福生第三小学校	(廃棄物の削減)	書写で使用した半紙も資源として分けており、掲示や教員への指導により、徹底した資源化が行われています。

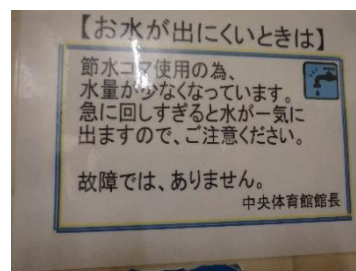
※職場によって相応しい原単位設定の方法が異なることに注意が必要です



福生第三小 コピー機のデータ掲示



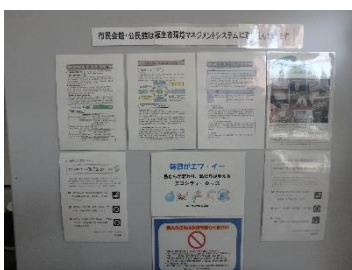
環境課 コピー機のパネル



中央体育館 節水コマ



学校給食課 食品ロスの掲示



市民会館 F-e の取組掲示



福生第三小 半紙の資源化

6. 監査項目ごとの所見

監査担当班において「特に高く評価したい点」を整理した結果を、監査項目ごとに記述します。

(特記事項の無い項目を除く)

設問番号	設問内容	監査の視点
3	コピー用紙使用量の削減	職場の状況を踏まえたコピー用紙使用抑制策が検討・実施されているか。

福生第三小学校 (担当：1班) コピー用紙の目標値は設定されていません(除外施設)が、コピー機のところに月別使用枚数・金額を掲示(コピー機使用前年度比較表)するとともに、職員数や児童数の表を掲示し、無駄な印刷をしないよう取り組んでいます。

環境課 (担当：2班) コピー使用量削減の工夫として両面印刷や2in1の利用のほか、コピー機のボタンわきにコンパクトで丈夫な注意書きを貼り付けて必ず目に入るようにし、注意喚起をしています。

設問番号	設問内容	監査の視点
9	独自の取組	職場の特性を活かした独自工夫が見られるか。

文化財係 (担当：1班) 小学校3年生を対象に行う「昔の道具しらべ」の学習の中で、道具の形の変遷に加えて未来の道具の進化についても児童に考えさせ、便利さだけでなくエコも進化のひとつであることをわかりやすく伝えているとのこと。大変重要な視点ですので、引き継いでいっていただきたいと思います。

福生第三小学校 (担当：1班) 紙ごみの資源化(書写で使用した半紙について、広げれば「紙資源」・折ったり丸めたりしたら「ただの燃やすごみ」の掲示及び教員への周知徹底)、さらに燃やせないごみを鉄・硬質プラなどに細かく分別を行っています。前回の監査の際にも分別がしっかりされていました。再資源化への取組の継続を高く評価します。

スポーツ推進課 (担当：1班) 環境課が担当している花いっぱい運動で、国道16号とやなぎ通りのプランターへの年2回(計2t)の水遣りの際に水を提供しています。この水は閉場後のプールの水の再利用とのことで、数年続いている継続的な取組です。プールの水の再利用として有効であるとともに、部局連携による取組としても評価できます。今後の継続を期待します。

中央図書館 (担当：3班) 本のリサイクルの他、独自の取組としてレシートの芯を再利用したブックエンドの作成と活用、落ち葉の再利用(萌芽会への提供)があり、これらについてさらなる取組をしていきたいとの話がありました。

学校給食課 (担当：3班) 給食のメニュー(和食、洋食の別)で残食の量に差があることなども分析し、学校及び関連部署と協働して指導を行っています。また、防災食育センター内に食品ロス削減の取組をPRする展示スペースを設け、子ども・地域・保護者に食育に関する啓発活動を積極的に展開していることは評価できます。今後の更なる周知や展開にも期待したいと思います。

7. 個別所見

各実行部門および推進委員に対する担当班からの個別所見です。

班	監査部署	個別所見
	市長	<ul style="list-style-type: none"> ・福生市では新エネルギービジョンで厳しい目標が定められているが、達成するため意識を集中して取り組んでいるとのこと。 ・水辺の楽校など多摩川に関する総合学習で自然への意識付けが効果をあげています。市長も多摩川の清掃に毎回参加され、ごみが削減されていることを実感されています。 ・SDGsについて知るに至り、今後日常的に当たり前のように17項目を継承して取り組んでいきたいとおっしゃっていただきました。 ・環境自治体会議全国大会（なめがた会議）などいろいろな環境の催しに参加され福生市の取組の説明や他自治体の取組などの情報を得られ、新たな試みを考えて行くとのことでした。今後も福生市の環境取組のPRをお願いします。
	副市長	<ul style="list-style-type: none"> ・推進委員会副委員長として、また副市長として市長を補佐して、業務の管理・監督（進行管理、予算管理、危機管理など）を行い、その中で、働き方の改革が省エネにつながるよう意識していらっしゃいます。職員の健康面から超過勤務の減少を図っているが、それが結果的にはエネルギー節約効果が得られるとの認識です。 ・新規機器導入がエネルギー節約に効果的であることは理解しているので、計画的に進めているとのことでした。
	教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会への取組の一環として、2020年までの5ヵ年で全市立学校においてコミュニティ・スクール制度を導入します。地域と学校のつながりについては、学校要覧やパンフを作成し、地域とのつながりの情報の見える化をしています。教育委員会では、地域人材を学校教育にどのように活用しているかをスケジュール表に盛り込み全校に作らせ、要覧に記載しています。地域人材を活用した環境、人権、平和、福祉教育を年間計画に盛り込んでいます。 ・五小の野鳥、七小の生物調査、一中は多様性の発表会、その他、熊川分水に着目した自然教育、地域安全マップづくりなど地域と連携して人材育成に努めています。 ・福生には誇るべき歴史と実績のある生涯学習があり、持続可能な開発目標（健康、福祉、パートナーシップ、ジェンダー平等）の達成のために人材育成の取組を展開しています。メンバーの固定化、メンバーの裾野の拡大が課題との話がありました。監査委員としては、人材育成とSDGsも含めて進展、広がり期待しています。
1	教育部長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・社会教育施設の再編を検討していく中でハード面の留意点や工夫など多彩なアイデアをお持ちでした。長期的にこうしたアイデアが生かされることを期待する一方、公共施設の複合化とあわせ、複合施設ならではの教育・学習活動の充実についても検討を進め、歴史のある本市の社会教育を継続・発展させていただければと思います。 ・また、平成32年度およびその後の目標達成に向けて、市民への発信が不足しているのご認識でした。SDGsへの取組も含め、子どもたちから自然に身につくよう、学校教育の中で周知できるような取組を考え、実施していただけると有難いです。
	議会事務局長	<ul style="list-style-type: none"> ・議会のペーパーレス化に向けて強い意欲をお持ちでした。実現すれば数万枚の削減効果があるほか、議会運営の効率化や業務時間の短

		<p>縮などの効果も上がるとのことで、大きなインパクトが期待できます。早期導入に向けて、積極的な働きかけを進めていただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、次回のF-e 監査に新任議員の方々も同席していただいているかどうかのご提案がありました。議会質問でも環境に関する質問が増えてきたとのこと。F-e や環境協働の考え方を共有し広めていただくためにも、ぜひ実現していただきたいと思います。
	総務部長	<ul style="list-style-type: none"> ・公用車の入れ替えに伴い、補助金を活用しプラグインハイブリッド車の導入を予定していることから省エネ効果が期待できます。 ・施設管理については省エネや再生エネルギーの活用を意識しています。これからも環境に配慮した取組に期待いたします。
	企画財政部長	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮行動については職員の十分な対応がなされ、実績も伴っているとのことで、今後はハード面の対応が課題であると認識されています。ペーパーレス化に向けて電子決裁の情報収集をされています。 ・福生市は財力が潤沢ではないため、様々な工夫をし補助金を活用されています。
2	福祉保健部長	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉センターの建物は平成7年に建設されたもので老朽化部分が多くなり、今大規模な改修工事に入っています。この機会に以下の様な省エネ設備の導入を図っています。 (1) マイクロコージェネレーションにより電力供給だけでなく熱エネルギーの利用が可能で、老朽化したボイラーを交換できました。 (2) 従来使用していた蛍光灯をLED化して消費電力を削減するだけでなく、電灯数を1574灯から1129灯に減らすことができました。改修工事終了後には、効果を数値としてとらえて次年度以降の目標値に反映させるようご指導をお願いします。 ・保健センターもかつての東京都の保健所時代のもので空調設備などが老朽化し、苦勞しています。
	市民部長	<ul style="list-style-type: none"> ・市民部の業務は法律で定められているものが多いので、特に行事やイベントは行っていないが、職員にはF-e のルールを遵守することで、行政コスト低減につながる意識を持ってもらうよう促しています。 ・窓口業務終了時間が延びないように庁舎入り口にその旨を掲示することで、働く環境の改善だけでなくエネルギー節約にもなっています。 ・マイナンバーカードを使うことで各種証明書の取得が可能でペーパーレス化にもつながるので、カード取得支援サービスを行っているが、なかなか取得率が上がっていない現状があります。
	生活環境部長	<ul style="list-style-type: none"> ・所管部署では各種の大規模なイベントを行っているが、その際の環境配慮として、イベント（七夕まつり、桜まつり）時の照明のLED化、猛暑時の七夕では大規模打ち水（消防訓練兼用で消火栓を利用して散水し、約4℃の温度低下効果）を行っています。 ・環境フェスティバルの時期にはフードドライブを当日だけでなく、前後の期間にも行って啓発をしました。食品ロスに関しては、町会・自治会など行政関連機関の宴席で3010運動（宴会等における食品ロスを減らす運動）を展開するよう庁外にも働きかけを広げています。 ・管理下にある市民活動サポートセンターと福東会館の2棟では利用者に環境配慮行動を行うよう掲示を行っています。 ・七夕まつりで大量のごみが発生することについて、出展者には予め注意しているので問題ないが、来場者はイベントということもあって意識ハードルが低下するためごみを捨てやすい傾向があると認識されています。ごみを捨てられがちな暗がりの場所を減らすなど

		<p>しているが、対応に苦慮されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ問題の解決策の一つとして、リユース食器の活用が考えられますが、現在導入している環境フェスティバル以外でのイベント時のリユース食器利用は、現時点ではまだ考えていないとのこと。一気に導入するのではなく、出店数が少なく会場エリアが限定される桜まつりでの可能性を検討するのはいかがでしょうか。
	会計管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の歳入・支払いという公金の管理を行っているため、紙による業務が多い状況です。伝票の手直しに添付するメモは鉛筆書きにしてメモ用紙を繰り返し使うような工夫も日常的に行っています。 ・現状では、支払いが適正かどうかチェックするうえで紙媒体が不可欠と認識しており、ペーパーレス化は検討していないとのことでした。 ・部署内では第3次福生市地球温暖化対策実行計画の周知に関して、職員研修の機会を利用するほか、毎月の交通安全確認の日に職員が話題提供をしています。これが環境に関する個人の知識を他の職員が吸収できる良い機会になっていると思われまます。
3	子ども家庭部長	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次福生市地球温暖化対策実行計画についてよく理解されており、所内によく徹底をされています。省エネ行動、職員の意識は定着しており省エネの行動の習慣化がされており取組には限界に来ているとのことがありました。具体的には次の部署の話がありました。 ・子ども育成課については保育園の建て替えを順次行っており、その中で、太陽光発電、省エネルギー設備を導入しております。（保育園は民間施設なので法人に依頼） ・児童館については、F-e 取組の徹底を図るため、年度に1回のモニタリングでチェックしています。 ・児童館では環境教育に力を入れ、リサイクル工作などの子どもたちへの講座を設け、子どもの育成、意識付けを図っています。（講座の講師は職員が担当） ・その他、おさがり交換会、環境フェスティバルなどの出展を行っており、子ども・保護者の反応については、環境への意識が高まっている様子や、再利用の重要性を理解いただけているとのことでした。
	都市建設部参事	<ul style="list-style-type: none"> ・福生駅西口再開発において、組合への支援を行っています。今後は、再開発地区に建つ施設建物について、スマートコミュニティを視野においたコージェネレーションなどのエネルギーの効率的利用などを提案したいと考えているというお話がありました。（長岡市の視察を参考にしています。）
	都市建設部長	<ul style="list-style-type: none"> ・所管する3課の業務が市民生活の満足度につながると考えているとのことがありました。 ・まちづくり計画課では、都市計画マスタープランを策定、「歩いて暮らせるまちづくり」に力を入れ取り組んでいます。 ・道路下水道課では、エコセメントなど再生品の利用を仕様書で指定し、委託業者において対応しています。市道の街灯は100%LED化を達成しています。 ・施設公園課では、施設の建設・改修時に省エネ・再エネ設備を費用対効果を念頭に導入していく方針です。CO2 対策のため緑の保全に努めています。 ・福祉センターの改修、扶桑会館の建設時に省エネ、再エネ設備の導入を図っています。施設の特성에応じて省エネ再エネの機械設備に固執せず、高断熱化によりエネルギー効率を上げるなどの工夫を凝らしています。（扶桑会館）
	教育部参事	<ul style="list-style-type: none"> ・ESD を人間の成長と社会の発展・存続を図る教育と捉え、学校教育

		<p>の中で、人の成長を図ることが重要であると認識しています。このことについては、児童生徒のみならず教員の実践が重要と考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の働き方を改革することが、環境負荷を軽減させることにつながると考えています。 ・小学校、中学校の連携について現在は、小中一貫校などのしくみが、福生市では構築されていないため、課題と考えているとのことです。
1	契約管財課 (もくせい会館)	<ul style="list-style-type: none"> ・もくせい会館の設備改良により、電気、ガス、水道の使用量において効果が顕著に表れていました。 ・緑のカーテンを続けており評判が良いことから、規模を広げて実施しています。 ・電気のLED化に向けて研究しており、高い意識で取り組まれていることが評価につながりました。 ・公用車へプラグインハイブリッド車を導入したため、今後の効果が期待されます。
	文化財係	<ul style="list-style-type: none"> ・前回監査でうかがった「展示室のLED化」は完了したとのことです。 ・文化の森の観察会は、幼児・児童を対象に10年ほど継続されており、参加者も喜んでいるとのことです。ぜひ継続してください。
	福生第三小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生管理委員会の活動が評価され、「東京芝生応援団」より表彰及び芝刈り機等管理用資材の寄付を受けていました。 ・人権の花活動や、使用済みインクカートリッジとベルマークの回収率をさらに上げるため、PTAに定期的に呼びかけ、地域を巻き込み拡大する努力が見られます。こうした取組が来年度設置されるコミュニティ・スクールの活動につながっていくことを期待します。 ・保護者への周知として、F-e監査を受けたことを「学校だより」に掲載することを検討しているとのことです。
	行政管理課	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度より新設された課で、主に①行政評価・②行政改革・③公共施設の将来を見据えた計画の3点を担っています。計画では40年後の公共施設のあり方について環境面も含めて検討していくとのことです。 ・3人という少人数の課のため、PCを活用した打ち合わせを行うことで、紙の削減をしています。 ・PDCAサイクルを強く意識している課であり、これから構築する評価の仕組づくりに期待します。
	情報システム課	<ul style="list-style-type: none"> ・各課の紙の使用量について把握をされていました。しかし今後は、紙の削減には情報システム課だけでなく、担当課においても使用量の把握などの対応の検討が必要ではないでしょうか。
	スポーツ推進課 (中央体育館)	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地内の落ち葉は以前は燃やせるごみでしたが、近隣の方から声をかけられ、落ち葉が畑の堆肥として役立っています。 ・また、台風で折れた木の廃材でマッサージ棒を作られていました。今後は環境フェスティバルに出展するなどの啓発機会の有効利用を検討しています。
2	介護福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者人口の増加に伴い通知等の作成が増加していることや、高齢者には電子媒体ではなく紙媒体での提供に馴染みがあることから、近年コピー用紙使用量が増加傾向にあります。レイアウトなどで使用量を減らす工夫をする一方、見やすさが損なわれないよう注意しています。 ・また職員の移動手段に公用自転車を利用しています。
	健康課	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度より子育て世代包括支援センター係が追加されたことで目標値の変更がありました。 ・保健センターということもあり、きれいに整理整頓されており清潔にされていることが確認できました。

		<ul style="list-style-type: none"> ・職員の方からの希望があり、夏の暑さ対策として冷房設備の改良を望んでおられました。幼児や高齢者の利用も多いため早急な改善が必要と感じました。
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館利用者に対して環境配慮行動を呼びかけるため、リーフレットの配布や室内電灯のスイッチ脇に消灯を促す注意書きカードを貼り付けるなど工夫が感じられました。 ・講座等の紙資料は参加者の文化資産になって残るので、必ずしも削減が良い方策とも言えません。また多くの人々に行事を広報するためのチラシも適正な枚数を使うことは理解できます。したがって配布先で余ったチラシを回収したり、配布先で裏紙使用するといった再利用の策を工夫して無駄な紙を減らす対策が好ましいと考えます。 ・今年度は業務増加が見込まれるにも関わらず、そのためのコピー用紙量が目標数値に反映されていませんでした。ぜひ次年度以降は、業務と目標との関連付けに意識してください。 ・環境協働報告書に記載できる活動が多くあるとみられるので、次年度からぜひ記載してください。
	環境課	<ul style="list-style-type: none"> ・コピー用紙削減のため、作業の邪魔にならないよう配慮してコピー機のボタンわきに注意点を記載したコンパクトなカードを取り付けて、必ず目に入るようしており、注意喚起の効果があると思われます。 ・福生市地球温暖化対策実行計画の市民啓発についてホームページを活用しているとのことですが、ホームページは見てもらうための工夫が必要かと思われます。今後も工夫を重ねて閲覧数が増えるように努めてください。 ・市民との協働活動について活発に外部に向けて発信が行われています。他市のモデルとなるように協働活動自体の充実と外部発信の継続をお願いします。
	福生第四小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・花いっぱい運動やエコキャップ運動などの地域を巻き込んだ環境活動、またヤマメの飼育や水道キャラバンなどの環境学習が多年にわたって継続されています。こうした活動は今後とも継続をお願いします。 ・電灯スイッチわきの消灯を促す注意喚起カードや休日前のパソコン・プリンターの電源オフなど節電行動が定着しているようです。今後の継続を願います。
	リサイクルセンター係	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はPETボトルの減容機を大型機に入れ替え、さらに処理量も増えたため電気エネルギー目標値の達成が困難であるが、超過分は0.8%に留まりそうとのことなので努力を継続してください。 ・省エネモーターの導入、投光機の電灯部をLED化による使用電力削減と発熱量低下による火災の危険性低減などの努力が認められます。また修繕の際に出る廃材を分別して鉄材を売却して収益を出していることも意義があります。 ・施設見学や中学生の職場体験など市民の環境学習の場を提供したり、リサイクルプラザでのリサイクル品販売など有意義な行事が行われていますが、市民に対する広報活動をいっそう活発にして周知させることをお願いします。
3	施設公園課	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標の管理については、ガソリンの削減達成は難しいとのこと。理由としては、苦情処理対応と公園の維持修繕のために車やダンプカーを使用しているためとのこと。 ・コピー用紙については、補助事業から事務量が増加し、使用量も増加しています。ただし、裏面利用を徹底しています。 ・市民参加・協働の促進については、河川清掃を30年以上継続して実施されており評価できます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・公園ボランティアについては、担い手が減少していることが課題です（11 団体 390 名の登録を確認しています）。 ・伐採した樹木の再利用について、可能な範囲でチップや堆肥として活用しています。 ・LED 化については、白熱灯の老朽化に伴いその都度取り換えを実施しています。
中央図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、きちんと F-e の取組が展開されています。市民監査委員としては図書館と地域のつながりについて評価できると考えます。 ・施設が老朽化しているため、数値目標の達成については人的努力では難しいと感じます。ハードウェアの更新をしなければクリアが難しく、数値目標については現状を踏まえて適宜見直しもできることを助言しました。 ・環境月間などに図書館入口の展示コーナーで環境関連書籍の PR コーナーを設けたらどうかという提案をいたしました。
学校給食課	<ul style="list-style-type: none"> ・（苦勞していること）給食センターの稼動と、安全安心な給食の提供が第一前提であるため、100 人以上の職員が全員集まることが難しい状況にあり、職員は分刻みの行動をしています中ですが、情報の共有化、周知徹底を図っています。 ・施設見学者がとても多いことや、試作調理や機器の保守整備が数値実績に影響を与えています。
市民会館	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度から指定管理者が変更になるので、今回監査した内容、F-e の取組が継続されることを期待したいと思います。監査チームとしては今後も注視していきます。
田園児童館・会館	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館全体の照明が暗く、子どもたちの活動の安全面での考慮が必要であると感じました。 ・建物そのものが老朽化しており、数値目標の達成が厳しい状況ではないかと感じました（苦慮しながら対応している様子でした）。 ・3 児童館が連携して環境フェスティバルに参加、啓発活動をしています。
福生第二中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による環境美化活動を、校内から校外に広げています（隣接する公園の落ち葉掃きなど）。 ・平成 31 年度から、第二中学校もコミュニティ・スクールとなることを機会に、今後も更なる地域との連携を図っていくことに期待します。